

に経済開発が高い水準にあることが基準とされている。

ケララ州の一人当りの年間所得は約 2,700 ルピー（表 III-1 参照）であり、全国平均の約 3,150 ルピーをわずかに下回っている。インド全国の各州の一人当たり所得を比較すると、ケララ州は概ね平均的な所得グループに入っている<sup>13</sup>。また、ケララ州は出稼ぎ者による外貨獲得、州内の家族・親類への送金額が多く、一人当たりの年間支出が高いことも特徴とされている<sup>14</sup>。

表 III-5 ケララ州の社会経済条件

| 項目                      | ケララ州 <sup>15</sup>    | インド全国 <sup>16</sup>   |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|
| ケララ州の人口 <sup>17</sup>   | (x 000)               | (x 000)               |
| 合計                      | 31,838                | 969,900               |
| 男性                      | 15,468                | 516,000               |
| 女性                      | 16,369                | 481,000               |
| 人口増加率（年間）               | 274<br>(0.94 %)       | 15,200<br>(1.56%)     |
| 人口密度                    | 819 人/km <sup>2</sup> | 296 人/km <sup>2</sup> |
| 識字率：男女合計                | 90.92 %               | 43.85%                |
| 男性                      | 94.20 %               | 32.2%                 |
| 女性                      | 87.86 %               | 55.5%                 |
| 幼児死亡率                   | 16                    | 47                    |
| 一人当たり年間所得（96 年時 80 年価格） | 2,725 ルピー             | 3,1467 ルピー            |

## 2-2 地域社会の推移と変化

ケララ州は東側に山地があり、インドの内陸地地域から孤立していることから、古くは海岸地帯での交易活動や入植が中心であった。人口の増加とともに中間地、高地への入植、開墾が広がった。また、高地では 1800 年代の入植以前の古くから現在指定部族（Tribe）と呼ばれる原住民が居住している（写真 III-6 参照）。

18 世紀後半にはイギリスによる統治が始まったが、それ以前にもオ

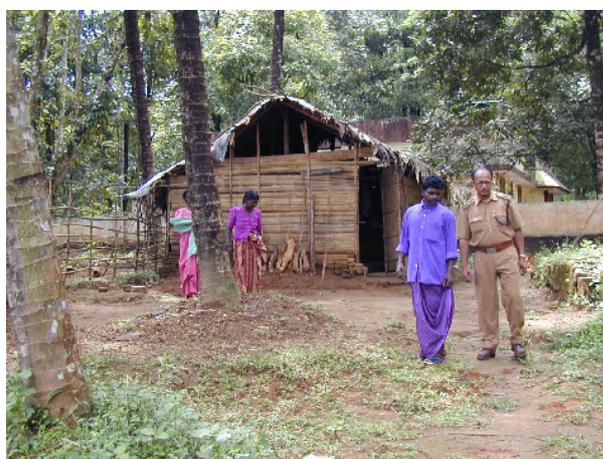


写真 III-6 原住民（指定部族）の伝統的な家屋

<sup>13</sup> 1980/81 年価格での 1996 年の一人当たり年間所得。India Reducing Poverty Accelerating Development, WB Study, Oxford University Press, 2000.

<sup>14</sup> 今次調査における聞き取り調査結果による。農家の新築資金は海外送金によるものが殆どらしい。

<sup>15</sup> 資料：ケララ州森林局 森林統計、1999 年

<sup>16</sup> タタ研究所、統計概要 2000-2001（Statistical outline of India, 2000-2001）

<sup>17</sup> 2000-2001 国勢調査

ランダやポルトガルによる入植活動も行われていた。現在のケララ州は1956年にトラヴァンコール (Travancore)、コーチン (Cochin) とマラバル(Malabar)が合併されたことによりはじまっている。ケララ州の州都トリヴァンドゥラム(Trivandrum)は18世紀以降にトラヴァンコール藩王国の都として栄え、現在は人口80万人を越えるインド半島西海岸有数の都市となっている。ケララ州の主要言語はマラヤラム語 (Malayalam) であり、マラヤラム語を話す民族はマラヤリス (Malayalis) と呼ばれている。ケララ州の宗教はヒンズー教徒が大半を占めるが、イスラム教徒、キリスト教徒も存在している。

### 2-3 産業や住民生活による自然環境への影響

現在、指定部族の生活は、概ねが州指定部族福祉局や森林局、農業省の電気や住居、食料などの福祉支援や特用林産物の加工、集出荷などの技術支援を受けて文化的に暮らしている。しかし、未だに道路からのアクセス状況などにより原始的な採取・狩猟生活を続けている部族も居る。部族が森林から採取する主な特用林産物はカルダモン、ヤニクズク、果実、など多種多様にわたる。樹脂は *Canarium strictum* (Black Dammar: カンラン科) と *Veteria indica* (White dammar: フタバガキ科) から採取し、無色ワニスやインクの原料となるが、ケララ州では線香に加工して、お香として利用している。その他の指定部族の活動は、焼畑耕作、林内放牧、狩猟が主なものとなっている。

ケララ州にはマラヤール (Malayar)、カダール (Kadar)、ムダバル (Muduvar)、ウラダン (Ulladan)、及びカダルス (Kadars) の5部族、671村落、17,155戸、73,492人が確認されている。

森林地内での過度な放牧による土地の劣化及び森林更新阻害も懸念事項である。1996年の統計ではケララ州には牛340万頭、水牛17万頭、ヤギ180万頭が飼育されている<sup>18</sup>。森林地近辺で放牧されている家畜数については不明であるが、ケララ州の高地に位置するネリヤンパシー(Nelliyampathy)地区では600頭の牛と1,062頭のヤギが飼育され、これらの75%が森林地内で放牧され森林の更新に悪影響を及ぼしていると報告されている<sup>19</sup>。

---

<sup>18</sup> 資料:ケララ州政府州計画委員会、1999年経済概要 (Economic Review 1999)

<sup>19</sup> KPRI 資料

## 2-4 住民の環境保全に対する意識

ケララ州には、およそ 100 以上のヒンズー教の寺があり、各寺は本章冒頭で述べたように寺社林を保有している<sup>20</sup> (写真 III-7 参照)。各寺の寺社林の規模は様々であるが、ヒンズー教によれば聖なる寺社は、「聖なる森」に囲まれていなければならない。抽象的な記述では有るが、ヒンズー教信徒は、日本人より忠実な宗教に対する信徒であり、「聖なる森」は、日本の鎮守の森よりも天然林に近い姿で守られている。

他方、NGO、草の根レベルの植林事業では、JFM を通じた住民組織が共同で管理する土地の森林開発・管理に加え、参加住民の各家屋敷地の植林 (Homestead planting) を主要なコンポーネントの一つとして位置付けている。第一段階として啓蒙、普及活動を通じ参加者の植林に対する理解と意識の向上を図った上で事業 (苗木の生産と植林、植林地の管理) を実施している<sup>19</sup>。

これらよりケララ州の住民は、森林、樹木に対する信仰、こだわり、愛着を持っているものと考えている。但し、斜面の無秩序な開発による農地開発、焼畑などから、環境を考慮した計画、即ち、斜面耕作には等高線上植樹やテラス造成を行うなどの土壌浸食防止技術やアグロフォレストリー技術の導入された形跡が無い。研究者や州政府レベル、ケララ農業大学レベルではそれらの技術や研究は成されているが、今後、現場への適用が急務と考えられている。



写真 III-7 カリ寺と寺社林  
(ヒンズー教、ケララ州)

## 2-5 行政の体制と開発計画

### 1) 森林の管理開発にかかる法律と行政の体制

ケララ州の森林は、ケララ州森林法 (Kerala Forest Act, 1961)、および 1971 年に公布されたケララ州私有地森林法 (Kerala Private Forests Act, 1971) に従って管理されている。ケララ州森林局が、同法律に基づいて森林の管理を担当している。その他の森林関連機関としてケララ森林研究所 (Kerala Forest Research Institute) が有る。同研究所は、ケララ州環境科学技術局傘下の機関であり、組織は公社である。

### 2) ケララ州開発計画

ケララ州第 10 次 5 ヶ年計画 (2002 年 4 月～2007 年 3 月) は、現在ケララ州計画委員会 (State Planning Board) が作成中である。次は、同委員会が作成中のドラフトから、環境分野に関連す

<sup>20</sup> 今次調査において KFRI より聞き取り。